

別紙様式 1

令和 8 年度白岳中学校区研究推進計画

校番 (3) (白岳中) 学校

校長名 河本 英希

1 中学校区教育目標

夢や目標に向かって 粘り強く頑張る児童生徒を育てる
ー夢や目標への自律的挑戦ー

2 目指す児童生徒像

- ・しっかり話を聞き、相手や目的を明確にして、自分の考えを表現する児童生徒
- ・他者とのかかわり合いを通して、自分や他者のよいところを見つめ、問題を解決したり考えを深めたりする児童生徒
- ・心と体の健康に必要なことを考え、実践できる児童生徒
- ・将来の「なりたい自分」をイメージし、そのための手立てを考え、実行できる児童生徒

3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力	知識及び技能	思考力、判断力、表現力	学びに向かう力、人間性
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
後期	社会生活に必要な知識・技能を習得し、あらゆる場面で活用できる。	他者と協働して考えを深め、分かりやすく自分の考えを表現することができる。	よりよい社会を実現するために、身近な集団と協働しながら、積極的に行動することができる。
中期	社会生活に必要な知識・技能を習得し、学校生活や日常生活で活用できる。	多様な考えを認め、相手に応じて伝え方を工夫することができる。	縦のつながりや横のつながりの中で、物事を多角的に捉え、自己の生活に生かすことができる。
前期	社会生活に必要な知識・技能を習得し、学校生活や日常生活につなげることができる。	自分の考えをもち、様々な表現方法でまとめたり伝えたりすることができる。	友達や家族、地域の人たちとかかわり、様々な思いや考え方に気付き、自己の力を伸ばすことができる。

4 研究主題等

(1) 研究主題

主体的に学び、考えを深め合う児童生徒の育成
～教師のファシリテーションが生み出す「学び合い」を充実させた授業を目指して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

昨年度、研究主題を「主体的に学び、考えを深め合う児童生徒の育成～教師のファシリテーションがつなぐ「学び合い」を充実させた授業づくりを通して～」と設定し、児童生徒の「学び合い」を生み出すために教師のファシリテーションを意識して研修を深め、単元構成や問いの設定について検討を重ねながら授業づくりに取り組んだ。その結果、2学期に行った児童生徒アンケートの「授業の内容が理解できる」（中学校）「授業の内容が分かる」（小学校）の項目において、今年度は肯定的回答割合が小学校で75%、中学校で91.7%であった。小学校・中学校ともに、授業の内容が分かると実感している割合が昨年度よりも低くなっていた。

広島県児童生徒学習意識等調査の結果からは「学習を最後までやりとげてうれしかったこ

とがある」(小学校対県比-2.5%)ことに課題が見られた。一方中学校では「自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表をしている。」(中学校対県比+5.3%)で県平均を上回っているが、「授業では、自分の考えを積極的に伝えている」(中学校対県比-10.2%)ことに課題が見られた。

令和7年度の全国学力・学習状況調査の結果では、小学校の平均正答率は、国語科では対全国比8.2ポイント、算数科では7.0ポイント、理科では4.9ポイント上回っている。国語科、算数科ではすべての設問において全国を下回るものはなかったものの、どの教科にも共通して、資料から得た情報を整理して活用することや、得た情報を用いて表現することに課題がある。これらのことから、情報を正確に読み取り、それらを的確に説明する力を伸ばす必要があることが分かった。中学校では、平均正答率が国語科では対全国比2.7ポイント、数学科では4.7ポイントを上回っている。その中で、国語科では「文章から読み取った情報をもとに、文章の構成を把握すること」に課題が見られ、数学科では、「問題文を読み、理解したうえで解法を考え、数や言葉を用いて記述し説明すること」について課題が見られた。

これらの実態から「学び合い」が形式だけになり、「授業が分かる・できる」といった実感に結び付いていないことや、自分の中では考えや意見をもつことができても、それを他者に伝える意欲や意思が低いこと、資料などの根拠を明確にして自分で物事を整理するなどして解決することが難しいことが浮き彫りになった。そこで本研究主題を設定した。

(3) 研究仮説

「つきたい資質・能力」を意識し、教師が児童生徒に学びの目的やねらいを明らかに示し、学びをファシリテートして「学び合いを大切にしたい授業」を充実させていけば、主体的に学びながら、自己や仲間の成長を実感できる児童生徒を育てることができるであろう。

5 研究内容

ア 教師が付けたい力と評価方法を明確にする取組

- ・ 教師が、単元を構想し、育成したい資質・能力を設定する。
- ・ 本時のゴールで目指す児童生徒の姿や、どこでどのように評価するかを具体化する。

イ 課題設定の充実を図る取組

- ・ 本時のめあてに必然性を感じ、興味をもって学べるよう、学習課題や場の設定を工夫する。
- ・ 児童生徒に、本時の授業のゴールをイメージさせ、児童生徒が主体的に学びを進められるよう教師がファシリテートする。

ウ 「学び合い」の充実を図る取組

- ・ 基礎的な知識・技能の土台づくり
- ・ 身に付けた知識・技能を活用する思考・判断・表現の場を意識した単元構想
- ・ ICTの活用による知識・技能の定着
- ・ 体験を伴った知識・技能の定着
- ・ レベルに合った問題に取り組むことで確実に知識・技能の定着を図る
- ・ 一人でじっくり考える場(自力解決)、自分の考えを伝える、友達の意見と比べる、自分の考えを広げたり深めたりする場(集団解決)を設定する。
- ・ 問いや切り返し発問を足掛かりとして、他者とかかわりながら課題解決に向かう場面を工夫する。
- ・ ICTを効果的に活用する。
- ・ 授業参観シートの活用

エ 「振り返り」の充実を図る取組

- ・ 「大切」「振り返り」を確実に行う。
- ・ 「振り返り」の視点や振り返りの内容を共有する。
- ・ キュビナを活用し、個に応じた基礎学力や応用力の定着を図る。

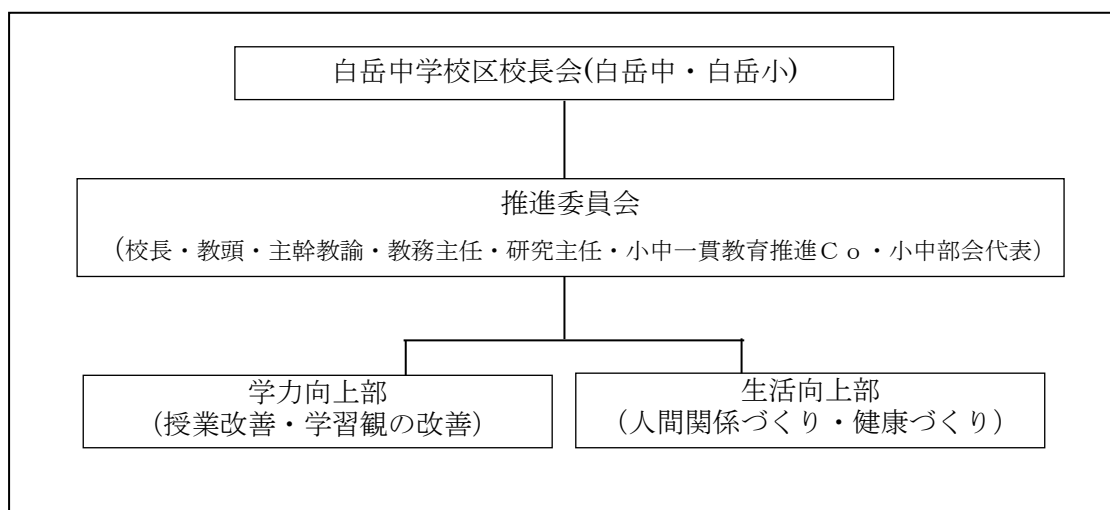
6 その他

- ・ 小中一貫だよりを発行する(年3回)

7 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 授業がよく分かると児童・生徒が実感できたか。	児童・生徒アンケート	児童・生徒の肯定的評価	小 75% 中 91.7%	90%
② 学び合いを大切にした授業を創造することができたか。	授業評価表	研究授業における教職員の相互評価値（4段階評価）	小 3.7 中 3.2	3.2以上
	教師アンケート	教職員の肯定的評価（4段階評価）	小 3.8 中 3.0	3.2以上
③ 児童・生徒の学力が定着したか。	国語科における2学期実施テスト	国語科「思考・判断・表現」の通過率	小 85.8% 中 66.0%	小 80% 中 70%
	算数・数学科における、2学期実施テスト	算数科「知識・技能」の通過率 「思考・判断・表現」の通過率	小 85.3% 中 74.0% 小 71.1% 中 53.3%	小 80% 中 70% 小 80% 中 70%

8 推進体制等



9 推進計画

月 日	内容	
	白岳中	白岳小
5月14日(木)	第1回推進委員会	
6月 3日(水)	第1回全体協議会(中1授業参観)	
8月 3日(月)	第2回推進委員会(小中合同での教材研究や指導案検討)	
8月24日(月)	第2回全体協議会	
(2学期 未定)	授業研究(小・中)	
11月5日(木)	白岳中オープンスクール	
12月 2日(水)	広地区クリーンキャンペーン	
1月18日(月)	第3回推進委員会	
2月8日(月)	第3回全体協議会(小6授業参観)	

10 その他

※ 研究構想図，カリキュラムマップを添付する。